

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果について

4月18日（火）、5月8日（月）に実施された全国学力・学習状況調査の結果が8月末に出ました。その結果をまとめ、山手中学校77回生の傾向を国語科、数学科、英語科の教師で分析をしました。また、生徒質問の結果に関しては、3年生の教師でその分析を行いましたので報告させていただきます。

1 学力について

【国語科】

「言葉の特徴や使い方に関する事項」については全国平均と同程度の正答率であった。選択式の問題については平均に近い結果が出ており、正しいかどうかを判断する力については高いと考える。しかし、記述式の問題に対する無回答率が非常に高く、苦手意識を持っていることがうかがえる。

また、「読むこと」の項目が弱く、長文を読み解くスピードも遅いため、後半の無回答率が高くなったと考えられる。文章を正しく読み解く力を伸ばすことが今後の課題である。

【数学科】

基本的な問題に関しては全国平均、兵庫県平均と同程度やそれ以上の正答率であった。ただ、応用力が問われる問題に関しては、苦手とする生徒が多いという傾向がある。その中で、記述式（説明・証明）の問題においての無回答率が高かったことも、今後の課題と考える。

【英語科】

「書くこと」の問題では全国平均と比べて高い正答率であった。特に短答式の問題での正答率が高かった。一方で「聞くこと」は全国平均と比べて低い正答率であった。「話すこと」の問題では難しいものもあったが、解答しようと挑戦する生徒が多くいた。今後は「聞くこと」の演習を授業の中で積極的に行うとともに、基本的な文法問題や長文問題にも重点的に取り組み、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4技能全体の力の向上が今後の課題と考える。

2 生徒質問の結果と今後の課題

○睡眠に関して、寝る時間は毎日ばらつきがあるが、起きる時刻は毎日同じ生徒が多く、日による睡眠時間にばらつきの多い生徒がいると考えられる。

○教師からよいところを認められていると感じている生徒は多いが、困りごとや不安があるとき相談できないと答えた生徒が多かった。相談しやすい環境をつくっていく必要がある。

○いじめに関して、どんな理由があってもしてはいけないと考える生徒が全国、兵庫県より高く、いじめを許さないという意識が高い。

○普段の生活の中で幸せな気持ちになることがあるかという質問に関しては、全くないは0%であり、生徒たちは小さなことでも何らかの幸せを感じることができている。

○読書に関しては、二極化が見られる。朝読書など本に触れる機会をつくりたい。

○地域の行事への参加率は全国、兵庫県より高い。今後は、地域行事への参加を通じて、地域貢献についても目を向けていけるように指導していきたい。

○授業の中では、問題解決に向けて自分で考え取り組むことは苦手としているが、話し合いの中で自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。授業の中で、基本的な内容から発展的な内容まで、問題解決できるよう周りと意見交換できるような授業形態の工夫を行っていきたい。

○学校の授業以外で、勉強のためにICT機器を使用している生徒は少ない。家庭学習では、教科書、ワークが主な教材となっている。今後は、ICT機器を活用した課題を出し、ICT機器を家庭でも有効に活用する機会をつくっていきたい。

○国語の勉強が好きではないと答える生徒が多いが、将来役立つ大切な勉強であると80%以上が感じている。自分の考えが伝わるように必要な情報を資料から引用して書くことを苦手としている。自分の意見をまとめて表現する機会を設けていきたい。

○数学の勉強が好きだと答える生徒は半数以上おり、大切な勉強だと考えている。しかし、将来役立つと考えている生徒は65%未満。授業で学んだ、数学的な考え方を基にした説明方法などを、他教科や生活に生かしていく場面をつくっていくことが課題である。

○英語の勉強が好きではないと答える生徒が多いが、将来役立つ大切な勉強であると80%以上が感じている。授業でのスピーチや話し合い活動ができていると実感している生徒も多い。しかし、将来英語を使う職業に就きたい、外国のことを知りたいという生徒は少ない。将来の夢や職業と英語の勉強をつなげていけるように取り組んでいきたい。